

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

4月14日

NO、2

不登校の経験・兆候

今年の1月、ベネッセコーポレーションが小中の保護者約2200人を対象に実施した「子どもの登校状況」というアンケートの結果を公表しました。

驚くべきことに、子どもに不登校の経験や兆候があると答えた保護者が4割弱いたとの報告結果でした。

「不登校は特定の家庭だけでなく、どの家庭にも起こりうることで浮き彫りになった。」と調査担当者が話しています。

「現在通えていない」が5.3%「以前不登校だったが、今は通えている」は5.5%、「行き渋りなどの兆候がある」は25.6%で、不登校の経験・兆候があると答えた保護者は、36.4%いました。



800名を超える本校ならば、300名(!)近くの子どもの不登校の経験・兆候があることになります。

昨年度から「スペシャルサポートルーム」として、登校しにくい子ども達が過ごす部屋を用意しました。登校すれば教室に行かないといけないというプレッシャーを少しでも払拭できるようにと考えてのことです。

一定の成果は得られました。しかし、今年度は人員の確保が難しくなりました。昨年度とまったく同じようには毎日6時間開設できなくても、できる範囲で継続したいと考えています。ご理解のほどよろしくお願いします。

無理やり学校に通う必要はないという考えが社会的に広がっていることは認識しています。学校に通わなくとも学べることはたくさんあります。一方で、学校に通わないと学べないことがあるのも事実です。

学校に通わずに成功した人がいるのは事実です。松下幸之助氏などは、まともに学校に通っていなかったことは有名です。

しかし、誰でもが松下幸之助になれるわけではありません。

学校を卒業しておかなければ、就職できない職業もあります。本人が「なりたい」と願っても、選べないこともあります。

子ども達のより良い将来のため、頑張っていきたいと強く思っています。ご協力よろしくお願いします。

校長 篠崎 勇